

大内まちづくり 協議会だより



特別号

2020年11月15日

※昨年、一昨年と、「大内地域の防災を考える会」を学校の体育館で行っていましたが、今年はコロナ禍の関係で、住民を集めての集会をやめ、昨年度の夏に実施した防災キャンプの様子のお知らせに換えることにしました。

防災キャンプの報告



昨年の夏、国の学校安全総合支援事業である「地域ぐるみの防災キャンプ」を、大内地域交流センターを会場に、児童生徒を対象に実施しました。

この防災キャンプは、断水状況下での生活や、停電状況下での夜間生活を体験するという考えで計画しました。そのため、上の写真のように、給水車による給水体験や、非常食体験など、子どもたちに非日常的な生活体験をさせることができればと考えました。

そこで、この事業を推進するために、地域の学校や教育関係団体に協力をお願いをするとともに、地域の防災士や市上下水道局、市消防署にも協力依頼を行って、まさに「地域ぐるみ」で取り組んだ防災キャンプでした。しかしながら、この防災キャンプを小・中学生に募集したところ、参加希望者が少なく、小学校低学年でも保護者同伴なら参加してもよいことになって参加者を集めました。そうしたことで、より現実の避難所生活に近づけたのではないかと感じました。

1泊2日の短い時間でしたが、防災に関するたくさんの内容を用意し、参加者に多様な体験ができるように準備しました。

当日のそれぞれの活動の様子については、次の2・3ページで具体的に報告していきます。

ご協力いただいた地域の皆様、そして関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

避難所運営ゲーム

この「避難所運営ゲーム」は、静岡県が開発したもので、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかが模擬体験できるものです。

このゲームを通して、避難者の属性を考慮しながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、自由に意見を述べ、かつ話し合いながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

子どもたちはとても楽しく取り組んでおり、評価が最も高かったです。

- ①開会行事
- ②講話1「避難所生活の心得」
- ③グループ活動1
「避難所運営ゲーム」
- ④給水体験
- ⑤夕食(アルファ化米と常備食のカレー)
- ⑥ロープワーク
- ⑦寝床づくり
- ⑧グループ活動2
「避難所生活のルールづくり」
- ⑨就寝



給水体験

市の水道局の協力で、給水車を出していただきました。子どもたちは、ポリタンクやペットボトルに水を入れ、生活水として活用しました。参加者は子どもだけでなく、その保護者もおられました。大人でも初めての体験であったという感想をもらいました。

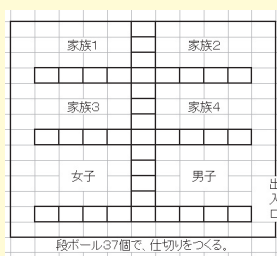
避難所生活のルールづくり

一日目の最後は、「避難所生活のルールづくり」をグループ活動として行いました。

周囲や他人に迷惑をかけないために、
◆大声を出さない、◆ゴミを出さない、◆協力する等の意見が出ました。



寝床づくり



ロープワーク

ボイスカウトのリーダーを指導者に招いて、①本結び、②巻き結び、③もやい結び、④一重つぎ、⑤テグス結び、⑥ふた結び、⑦てこ結び、⑧二重もやい結び、⑨腰掛け結びの9つの結び方を教えてもらいました。



2日目（8月11日：日曜日）

- ⑩起床・洗面
- ⑪ラジオ体操
- ⑫寝床の片付け・清掃
- ⑬朝食（缶入り黒糖パン）

⑭実習 1

「土嚢づくりと運搬体験」

⑮講話 2

「大内地区における過去の災害の様子」

⑯実習 2

「救急救命法の実習」

⑰振り返り

⑱閉会行事

土嚢づくりと運搬体験

底を取り除いたバケツを使って、実際に土嚢を作ってみました。

子どもにとってはとても難しく、一輪車で運ぶことも大変でしたが、貴重な体験となりました。



救急救命法の実習

講師に、山口市中央消防署大内出張所から救急救命士を招いて、救急救命法について、講義と実習を行いました。

AEDの使い方や心臓マッサージの仕方だけでなく、けが人等の運搬方法についても実習しました。



朝食は黒糖パンの缶詰



過去の災害の様子について

平成21年7月、大内で起こった水害の様子について、元茅野神田自治会長の中野憲和氏からお話をいただきました。



各活動における参加者の評価（5点満点）

①講話 1「避難所生活の心得」	4.3
②グループ活動 1「避難所運営ゲーム」	4.9
③給水体験	4.7
④夕食（アルファ化米と常備食のカレー）	4.75
⑤ロープワーク	4.4
⑥寝床づくり	4.9
⑦グループ活動 2「避難所生活のルールづくり」	4.7
⑧朝食（缶入り黒糖パン）	4.7
⑨実習 1「土のうづくりと運搬体験」	4.7
⑩講話 2「大内地区の過去の災害の様子」	4.55
⑪実習 2「救急救命法の講習」	4.4



左の数値は、それぞれの活動内容について、参加者に5段階で評価してもらった平均値です。どの項目も4点以上であり、参加者からは大変好評であったと感じています。特に、避難所運営ゲームと寝床づくりは、一人が4点で、残りはすべて5点という評価でした。参加者が少なかつたという課題はありますが、今後も少人数でも回数を重ねながら推進していきたいと考えています。

実施後の参加者の感想

- 普段できないことが体験できて、もし何かが起こった時に役に立たせたいと思った。（小3女子）
- いろいろ楽しかったことがあって良かったです。どんな人をどこに避難させるかを考えた避難所運営ゲームはとも考えました。ロープのいろいろな結び方や、段ボールでの寝床の作り方、土のうの作り方、AEDの使い方を学びました。土のうはとても重かったです。（小4男子）
- 新しい友達もできて楽しかったです。また、避難所での過ごし方やルールも覚えられました。家でも、いつ災害が起きてもいいように、準備しておきたいと思いました。とても楽しかったです。（小5女子）
- 講話による災害への理解ができた。災害時の避難所生活を体験できたことやたくさんの内容は良かったと思う。でも、小さい子でも分かる・できる内容を少し増やしても良いと思う。今まで分からなかったことを知ることができた。（小6女子）
- 災害、避難について学び、考えることができて良かったです。給水体験や段ボールでの寝床づくりも初体験でした。実際に子連れで体験できて良かったです。（保護者：母）

成 果

- ◇給水体験や救急救命法など、**初体験の活動が多く**、多くの参加者が満足できたようだ。
- ◇幼児から小学6年までの異年齢集団での避難所生活が体験でき、**他者を意識する生活**ができた。
- ◇低学年の児童は保護者と一緒の参加となったが、そのことで実際の**避難所生活に近づき、効果的**であった。



大内まちづくり協議会では、この防災キャンプの参加者からの評価を受けて、地域住民の防災意識を高める方法として、このような体験活動を取り入れた事業を推進していく計画です。

今後は、コロナ禍の中でもできる内容を検討し、活動を通して、住民の防災意識を高めていきたいと考えています。